

75 歳以上高齢者胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術の短中期成績

対象：

2010年1月から2013年12月に国立がん研究センター東病院にて胃がんの手術を受けた患者さんを対象とします。

研究の概要：

日本は今 8 人に 1 人が 75 歳以上の高齢者という超高齢者社会をすすんでいます。「高齢者」の定義は一般的には 65 歳以上、さらに 75 歳以上を「後期高齢者」と定義づけられていますが、一般的に高齢者は高血圧、糖尿病などの併存疾患を持っていることが多く、侵襲の大きい（体への負担の大きい）手術を受けることで予期せぬ術中・術後トラブルが起る危険性が高くなると言われています。

そんな中侵襲が低い手術として最近「腹腔鏡下手術」が多くの施設で行われています。この腹腔鏡下手術が高齢者にとって本当に安全かつ有用なのかどうかに関してはまだはっきりとした根拠がそろっていません。

研究の意義：

そこで私たちは、これまでに当院で腹腔鏡下胃切除術をうけた高齢胃癌患者（75 歳以上）の短期成績（主に術後の合併症）と中期成績（3 年生存率）を調べ、75 歳未満の胃癌患者と比較を行い、高齢者に対する腹腔鏡下手術の安全性や有用性を検討します。本研究で得られる結果は、今後高齢胃癌患者に対する腹腔鏡手術の適応を判断する際の一助になると期待しています。

目的：

本研究は、高齢胃癌患者の腹腔鏡下手術の短中期成績を調べ、腹腔鏡下手術の安全性・有用性を検討することを目的に行います。

方法：

上記対象患者を 75 歳以上の群と 75 歳未満の群に分類し、性別や、BMI、併存疾患の有無、さらに手術に関連する事項（術式、手術時間、出血量、郭清リンパ節個数、術後合併症、術後在院日数）の臨床データを紙カルテ、電子カルテを用いて集計し、2 つのグループ間で比較を行います。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別のため、新たに番号を用いて管理し、個人情報

が院外に出ることはありません。患者さま等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究での利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 胃外科 渡邊将広

FAX 04-7131-4724 / TEL 04-7133-1111 (内線 91595)